

# 令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 115

江戸川区立船堀小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差									
学年		第6学年		学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度		国語	算数	合計		年度		国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標						令和12年度の目標							
令和11年度の目標						令和11年度の目標							
令和10年度の目標						令和10年度の目標							
令和9年度の目標						令和9年度の目標							
令和8年度の目標		+5	+10	+15		令和8年度の目標		+5	+5	+5	+5	+7	+5
令和7年度の結果		+5.2	+12	+17.2		令和7年度の結果		+4.4	+4.5	+5.4	+3.3	+4.6	+6.2
令和6年度の結果		+3.3	+8.6	+11.9		令和6年度の結果		+1.2	+1	+5.3	+4.2	+4.9	+11
令和5年度の結果		+5.8	+8.5	+14.3		令和5年度の結果							

年度 内容	令和7年度 成果と課題	目標	令和8年度 目標達成に向けた取組
	学校全体	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ドリルパークの推進により、5月よりも利用率が増えた。また、よむYOMUワークシートの活用を定着できてきた。</li> <li>校内研究を土台に、自分たちで学習課題を設定し、解決する力が身につけてきた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力調査の結果より、国語では文章の事実と意見を読み分け、文章全体の構成や文章の要旨を把握することや資料と文章を対応させながら読むことが苦手であり、単語の拾い読みだけで問題に回答したり、文章の要旨に対応して意見を持ち、記述することが苦手。記述問題の無回答率も比較的高い。</li> <li>学力調査の結果より、算数では「測定」「図形」領域が苦手。また、どの問題においても「説明する」「複数の条件から考える」問題の無回答率が高い。</li> <li>江戸川区の学力調査より、本校はA層が多いものの、B層は少ない。CD層の割合を減らし、B層の割合を増やせると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「船堀小 学習のすすめ」を児童により浸透させ、学び方の意識向上を図る。</li> <li>○ドリルパークの利用推進はもちろん、復習ややり直しの徹底を全学年で統一して意識づけさせる。</li> <li>○左記の国語や算数における読解力や記述力、思考力や表現力といった力を伸ばす。</li> </ul>
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1学期に基礎定着を狙ったワークシートを全学級共通で継続的に取り組ませてきたことにより、基礎学力向上に繋がった。</li> <li>年3回のスタディーウィークの取組では、現学年のベーシック診断テストの結果をもとに、ドリルパークの活用を推進した結果、自己の課題に着目できるようになった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>推定C層をB層にすることを狙った取り組みが多かったため、D層との差が広がっている。D層への対策が必要である。</li> <li>漢字学習はテスト対策の練習を実施しているため、テストの点数はよいが、日常的に使えない、同音の漢字を誤って使用するなど定着に至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前期に平仮名、カタカナ、後期に片仮名と漢字の定着を図り、日常的に使用とする意識を向上させる。</li> <li>○ドリルパークの利用推進や、復習の徹底を全学年で統一して意識づけさせる。</li> <li>○国語や算数における読解力や記述力、思考力や表現力といった力を伸ばす。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1学期は基礎定着をねらったワークシートを全学級共通で継続的に取り組ませ、正しい字で書くことを定着させ、基礎学力向上に繋げる。</li> <li>○後期はドリルパークの活用を正答率100%になるまで繰り返し取り組ませ、自己の課題に着目できるようにする。</li> </ul>
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学級で継続的に授業改善に取り組んできたことにより、ベーシック診断テストの結果、CD層の割合が減り、D層は0%となった。</li> <li>年3回のスタディーウィークの取組では、現学年のベーシック診断テストの結果をもとに、ドリルパークの活用を推進したことにより、利用率が増え、苦手な学習に取り組む。自己の課題に着目できるようになった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月のベーシック診断テストの結果では、4月の結果に比べ、CD層の割合が増えました。これは、1年生の問題しかり組んでこなかった児童に2年生の学習が加わったことにより、使い分けができなかったことが要因であると推測する。</li> <li>スタディーウィークの取組では、取組の程度に差がある。家庭の声掛けの差もあるが、不正解のまま終わらせている児童がいる。反面、80～100%になるまで取り組める児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1学年の既習学習の基礎・基本の定着を継続的に取り組めるようにする。</li> <li>○ドリルパークの利用推進はもちろん、復習ややり直しの徹底を学年で統一して意識づけられるようにする。</li> <li>○左記の算数における問題を読み解く力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年に数回、期間を決めて放課後補習日を設定し、基礎的・基本的な問題に取り組めるようにする。</li> <li>○ベーシック診断テストの実施に合わせて、現学年の診断テストも実施することで自己の苦手な学習に取り組むことの大切さを理解し、復習ややり直しを意識して取り組めるようにする。</li> <li>○既習事項を活用できるようにするとともに、左記の力を育成するための授業改善を図る。</li> </ul>
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週水曜日のベーシックドリルデーの取り組みを1年間続けた。</li> <li>・学力テストの結果は全国平均を4ポイント以上上回った。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語、算数共に基礎問題に比べて活用問題が弱い。</li> <li>・どの問題においてもA層とD層の差が大きいため、D層に対して文章を読む力、表現する力を育てることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の定着は継続できるようにする。</li> <li>○テストの振り返りや調べ学習、意見交流を通して、問われていることに的確に表現できる力をつける。</li> <li>○最後まで<u>昭亜r馬頭</u>に取り組む態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活用テストを購入し、返却するときには振り返りを行い、問題文の読み取り方や答え方、表現方法を理解できるように全体指導を行う。</li> <li>○算数の習熟度に合わせた授業改善を意識し、学力層に合わせた学習内容を工夫する。</li> <li>○学校生活全般において粘り強く取り組む態度を育て、取り組んだことを認め、達成感を得られるようにする。</li> </ul>
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語ではD層が減少し、AB層が増加したことで学力の底上げが図られた。「話す・聞く」は、定着をした。</li> <li>・算数では、ドリルパークの活用により基礎的な計算力などが身に付いていた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語では、文章全体の構成や要旨を把握すること、資料と文章を対応させて読むことに課題。</li> <li>・記述問題の無回答率が比較的高い。算数では「測定」「図形」の領域弱い。</li> <li>・「説明する」「複数の条件から考える」問題において無回答が多いため、思考の言語化に課題。</li> <li>・A層は多いもののB層が少なく、CD層からB層への引き上げが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語・算数ともに、自分の考えを文章や図、数式を用いて的確に表現できるようにする。</li> <li>○文中の事実と意見を読み分け、要旨に基づいて自分の意見を構築できる力をつける。</li> <li>○学習のつまづきを明確にすることで、CD層の割合を減らし、B層以上の割合をさらに高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「読むこと」「書くこと」を日常の授業に取り入れ、段階的に指導することで、書くことへの抵抗感を減らし、達成感を味わわせられるようにする。</li> <li>○習熟度別少人数指導を有効活用する。AB層は図を活用した思考過程の言語化を重視し、CD層は基礎・基本の徹底した定着を図る。</li> <li>○家庭学習の習慣化と問題の「解き直し」を共通ルールとして徹底する。そのためのテスト後の解説を行う。</li> </ul>
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区学力調査の結果を達成率として見たときに、国語84.4%、算数81.5%で、全体としてのベースアップはできた。</li> <li>・習熟度に合わせて進度を調整した授業改善と家庭学習でのドリルパークの活用に取り組んできた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力層で見たときにC層D層の割合が、国語49.6%、算数49.6%でありほぼ半分を占めている。特に算数はD層がC層を上回っており、底上げが必要である。</li> <li>・国語の記述式の問題に慣れていないこともあり、正答率が低くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力層のベースアップを目指し、C層D層の割合を40%に減少させる。また、D層よりもC層の割合が多くなるようにする。</li> <li>○国語・算数共に、応用問題、特に記述式の問題に自信を持って取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○算数は、習熟度別の授業の中で、個別の支援をより丁寧に行うだけでなく、一人一人に合わせた練習問題をミライシートで取り組ませるなど授業改善を進める。国語では、読み方や考え方、そこから何を考えたかなど、問題に取り組むこと以外にもYOMUワークシートを活用していく。</li> <li>○各教科の授業の中で、自身の考えを言語化し、話したり書いたりする学習に取り組む。記述のための力をつけていく。</li> </ul>
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よむYOMUワークシートやドリルパークの活用機会を多くもつことができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査の結果より、算数に比べ、国語の方が点数がとれていない。読解力や記述力のどちらも課題がある。一問一答の基礎的な問題に対して、記述問題や複数の資料を読みつなぐような問題に苦手意識を感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○よむYOMUワークシートやドリルパークのより有効的な活用をすすめ、児童が取り組みの良さを実感できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○よむYOMUワークシートにただ取り組ませるのではなく、記事の内容についてクラスで話しあったり、教師が苦手な児童のために判読してあげたりなどの工夫をする。</li> </ul>